

各地からのたより

岐阜県林活議連の勉強会で

竹林次長基調講演

〔名古屋事務所〕十二月十三日（月）、岐阜県議会議会林業活性化促進議員連盟の勉強会において「森林・林業の再生に向けた国有林の取り組み」と題して、竹林中部森林管理局次長による基調講演が行われました。

この基調講演は、同議員連盟会長の早川捷也議員の依頼を受けたもので、竹林次長のほかに、岐阜県森林組合連合会副会長の三島喜八郎氏が基調講演を行い、同議員連盟会員四十一名中、二十二名の出席に加え、林協会と全木連及び県職員への参加もあり総勢二十八名の方が聴講しました。

講演内容は、国有林の位置付け、管理経営の基本方針から始まり、日本の森林・林業が抱える生産性や木材の安定供給などの、問題点や課題を林業先進国と比較し具体的に説明し、その解決策として政府・林野庁が取り組む「森林・林業再生プラン」を進めて、今後十年間でドット並みの路網密度を達成し、集約化を図ることで、生産性を向上させ、安定的に木材を供給することができる。

また、このことにより、雇用が創出され、山村の活性化に繋がることなど、プロジェクトを使い解りやすく説明しま

した。議員からは「国有林と国有林との森林共同施業団地については積極的に進めてもらいたい。」などの意見が出され有意義な講演となりました。



国有林の取り組みについて講演する竹林次長

北アルプス最奥地（雲ノ平） 第二回植生復元意見交換会を開催

〔富山署〕雲ノ平（標高二、四〇〇、二、七〇〇メートル）は、富山県南東部の長野県・岐阜県の県境に位置し、周囲を三千級級の山々に囲まれた北アルプスの最奥地にあります。溶岩台地上に形成された雪田草原には池塘が点在し、高山植物の宝庫となっていますが、登山道が整備されていかなかった昭和四十年代から登山者

が増加したことによって、植生の踏みつけがあり、これに雨水等による洗掘が重なって植生が荒廃してしまつた箇所があります。そのため、当署では平成二十年からアクションプログラムとして大・山小屋と協働で「雲ノ平植生復元事業」を実施しています。

三ヶ年計画の当事業は最終年を迎え、二月十四日～十五日に意見交換会を開催しました。メンバーは、九月に開催した現地検討会での局署職員、東京農業大学、雲ノ平山荘、環境省レンジャー、富山県自然保護担当者、富山市担当者（大山総合行政センター）のほか、富山市科学博物館の学芸員を加えた総勢二十一名で、立山町にあるグリーンパーク吉峰で開催しました。

意見交換会では、二月三日の中部森林技術交流発表会において「優秀賞」を受賞した「北アルプス最奥地 雲ノ平植生復元活動について」（山小屋・大学との新たな協力体制）（当署と東京農業大学の共同発表）を紹介し、平成二十二年度の植生復元事業報告、三カ年（平成二十～二十二年度）の総括を報告したのち、平成二十三年以降のアクションプログラム計画案や、今後各関係機関ができることなどについて意見交換を行いました。

また、今後も適宜に意見交換会を開催し、なお一層相互協力を密にしていこうと確認しました。

この雲ノ平植生復元活動の取り組みについては、富山市（大山総合行政センター）などの協力を得ながら地域関係者や住民などに紹介していくこととしています。



意見交換会の様子

大学生が森林管理署を訪問

〔南信署〕平成二十三年一月二十一日に信州大学農学部森林科学コース二年生の三十三人が、講義の一環として南信署を訪れ、署長と森林ふれあい係長等が国有林野事業の概要や森林官の業務等に関する説明を行いました。このキャンパス外での講義は、平成十六年度から実施されており今回で六回目となり、学生達の進路選択の参考にもなっています。

国有林野事業の概要については、この五十年間で立木と製材品の価格変動の落差を示して、署長から学生へ向けて林業界の抱える問題について投げかける場面もありました。

森林官の業務については、森林官車両や仕事道具を実際に見てもらった後、仕事風景のスライド、新規採用係員の体験談を織り交ぜて紹介しました。

学生からは「今後の進路選択の参考になる」「林野庁に行きたい気持ち強くした」「公務員は事務中心のイメージだったのが一挙に変わりました」など好感をもった感想が多数寄せられました。

講義後のアンケート結果によると、約半数が公務員を志望しており、うち林野庁を希望している人は三分の一でした。が、進路をまだ決めかねている者も約二



森林官の仕事道具について説明



竹内署長の話に聞き入る大学生

割程度ありました。

一方、当署の認知度については、四分の一の人がこの日初めて「森林管理署」の存在を知ったとの回答が寄せられ、更なる国有林野事業のPR等の必要性を感じました。

また、学生達から「森林官がすごくカッコいいと感じた。」「国有林を守ることは大変なんだと感じました。自分がその仕事にしたら本気で森を守りたいと思います。」等の感想もあり、学生から刺激を受け、背筋を正す気持ちにさせられました。

信州大学農学部とは同じ伊那市にあることから、今までも様々な交流等を行ってきていますが、今後とも交流を続け、森林林業の再生に向けた人材育成の一助に貢献していきたいと考えています。

社会貢献の森「天然水の森 ぎふ東白川」協定調印

「岐阜署」十二月二十一日に岐阜森林管理署署長室において、サントリーホールディングス株式会社（以下サントリー）と岐阜森林管理署が「社会貢献の森」による森林整備協定の調印式を行いました。



スライドを使って森林管理署の業務について説明



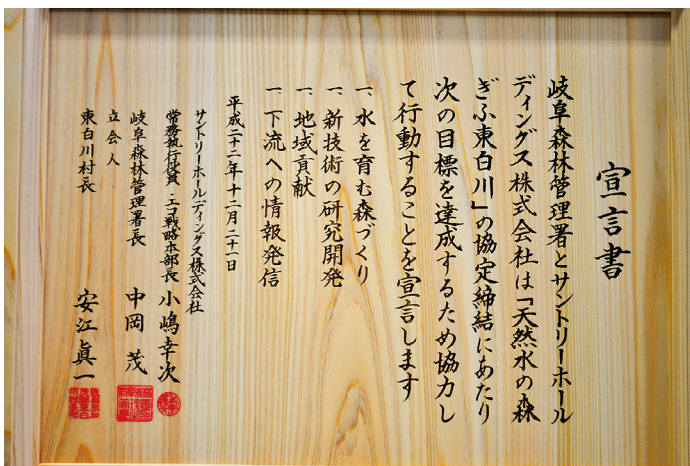
森林整備協定の調印 (右: 中岡署長) (左: サントリーホールディングス 三枝さん)

サントリーは清涼飲料の原料として大量の地下水を利用していることから、2003年より全国にある各工場の水源となるエリアを対象に「天然水の森」を設定し、地下水を育む力の大きい森を指定した森林整備活動を行っています。

今回は、愛知県犬山市にある木曾川工場の水源の一つである飛騨川流域の越原国有林（岐阜県加茂郡東白川村 協定対象面積約三百六十畝）の森林整備を行うことで水の恩恵を継続的に受けたいとのサントリーの意向により協定を結ぶこととしたものです。

具体的には水源涵養能力を最大限に發揮する間伐方法の研究開発、林地残材の

宣言書



目的達成のための宣言書

有効利用、溪畔林の造成、壊れない作業路網の整備等を共同して取り組んでいくこととしています。

本協定により「天然水の森 ぎふ東白川」と命名された越原国有林は、地元の東白川村も水源として重要視していることから、東白川村役場にて村長立会のもと、「水を育む森作り」「新技術の研究開発」「地域貢献」「下流への情報発信」の目標を掲げた宣言書を交わしました。



シリーズ 現場最前線

必要な作業を正しい手順で実行

「南信署和田森林事務所班」

当森林事務所の国有林は、長野県南部の飯田市南信濃（旧南信濃村）に所在する南アルプス（赤石山脈）南部の西斜面を中心に、標高約六百〜三千メートルの間に位置する約八千鈔を管轄しています。管内は中央構造線が縦断し、構造線に沿って流れる遠山川に沿った急峻な地形であり、管轄面積の約九十四％を天然林が占め、南アルプス国立公園や南部光岳生態系保護地域が設定されています。

また、南信州での山里といえる地域にあり、国の重要無形文化財に指定されている霜月祭が伝承されています。

当森林事務所の現場班は現在二名で隣接する上村、豊丘、阿智森林事務所の管内も含め、林野巡視、境界管理、林道維持などの森林管理保全業務を中心に作業を行っています。また、南信地域はニホンジカの食害による被害が深刻かつ重大な問題となっており、地元市町村等との連携を図りながら各種の被害防止対策を実施するとともに、職員自らくくり罠による捕獲も実施しています。

現場作業に当たっては、毎朝のミーティングで当日の天候や作業内容に応じた作業段取りや安全作業の確認を行うと



くくりワナの設置作業

ともに、国有林までの路程が長く、狭い道路状況を踏まえた安全運転の確認を行い、労働安全や交通事故等の未然防止を念頭に置いた業務の遂行に努めています。これからも、必要な作業を正しい手順で実行し、労働災害のない健康で明るい職場づくりに努めていきたいと考えています。

人のうごき

中部森林管理局人事

一月一日付

▽岐阜森林管理署業務第一課経営係（岐阜署樫谷森林事務所） 田中 啓友

二月一日付

▽企画調整室監査係長（総務部経理課企画係） 羽生田 久男

◆新規採用者

二月一日付

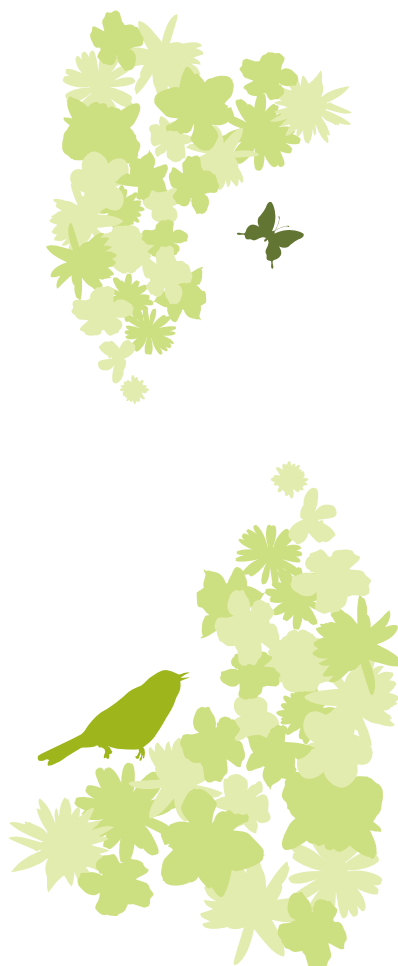
〈Ⅱ種採用〉

▽中信森林管理署治山課治山第一係 安藤 成章

行事・会議等の予定

◎森林ふれあい講座

3月12日 名古屋事務所





関田山脈 (鍋倉山) 遠望



関田山脈と「信越トレイル」

「北信署」飯山市の北西部、長野・新潟両県に跨る「関田山脈」は、斑尾山から天水山までの標高千メートル前後の山並みが約八十キロメートルにわたって連なり、斑尾高原、なべくら高原、光ヶ原高原やギフチョウ・ヒメギフチョウの混生地として国

の天然記念物に指定されている「黒岩山」などの山々を擁するブナ林を主体とした里山です。

日本海から約三十キロメートルのこの山脈は、火山活動によって造られた山地で、山脈の上部はいくつもの池沼が見られます。また、この一帯は全国でも有数の豪雪地で、山脈上部では積雪が七月にも及びます。

この山脈には、昔から集落毎に十六もの峠があり、県境を越えての生活や文化の交流が盛んに行われ、越後から塩、魚などの海産物、信濃から和紙や菜種油などが送られ人々の生活に深い関わりをもっていました。古くは親鸞聖人の布教の道、上杉謙信の信濃攻めの道として伝えられている峠もあります。

山脈上部の森林は、その殆どが国有林で、長野県側は当署が、新潟県側は上越森林管理署が管理しています。その大半はブナを中心とする天然林で、なかでも長野県側の鍋倉山麓には、「森太郎」「森姫」をはじめとする樹齢三百年以上のブナが林立する森林があり、その中で約二十一ヶ所を平成二年に全国で初めて「郷土の森」として設定しています。また、斑尾、茶屋池、野々海池といった風光明媚な場所もあり、風致探勝林として設定しています。新緑の芽吹きや紅葉の頃の湖沼に映えるブナ林はひときわ美しい姿を見せてくれます。

六月の雪解けとともに、カタクリ、オオイワカガミ、シヨウジョウバカマ、ミ



信越トレイルの利用者

ズバシヨウなどの植物が咲き始め、鍋倉山周辺だけに生育するナベクラザゼンソウもこの時期花を咲かせます。

この山脈には、尾根沿いに総延長八十キロメートルにも及ぶ日本初の歩くトレイル「信越トレイル」が設置されています。関田山脈の自然や地域の文化、歴史に触れてもらえるようにと、長野・新潟両県の関係市町村、団体が一体となって設置しました。平成十六年からNPO法人「信越トレイルクラブ」を中心にルートの本格的な整備が始まり、構想から八年目の平成二十年九月に全線開通し、現在に至ります。

関田山脈には全く道がなかったというわけではなく、かつて使用されていた遊歩道や国有林内の管理歩道、あるいは林道を活用する形で整備が行われ、トレイルが徐々に延びていきました。

国有林部分のルートについては、「関田トレイル」と位置付け、前者と協定を結び、維持・活用を図っています。全線開通を機に、トレイルを利用して

の地域のイベントや学校での自然環境教育も年々増え、平成二十一年度には、延べ三万人に利用していただくまでとなりました。

トレイル道は、道標や案内板も設置されており、また、毎年、刈払いなどの整備もされ歩き易くなっています。

自然とふれ合いながら山頂を目指す登山とは違う「山歩き」を味わってみてはいかがでしょうか。

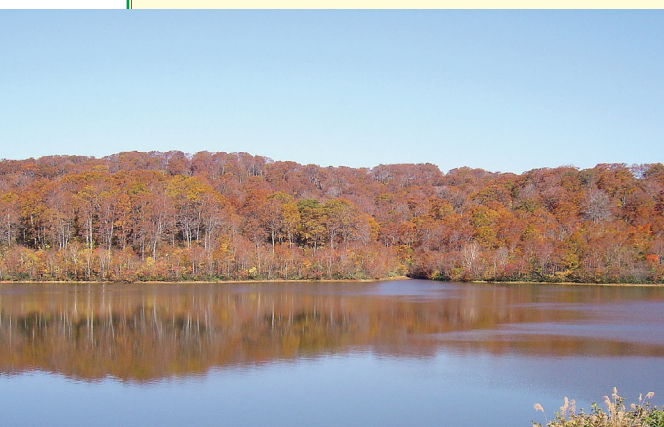
◎アクセス方法

▼マイカー

上信越自動車道豊田飯山インターから約三十分～九十分(国道一一七号線経由各峠まで)

▼JR及び公共交通機関

飯山駅からタクシーで約三十分～九十分(国道一一七号線経由各峠まで)



ブナの紅葉に染まる野々海池